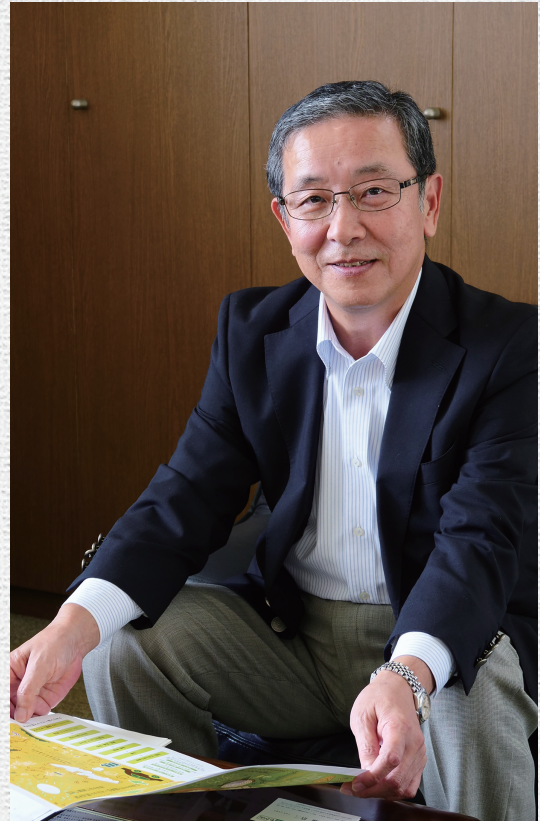


社会インフラ整備で地域に貢献したい

～仕事を通して次世代を育成し地域の存続を図る～

永井建設株式会社



代表取締役 永井敏行

●どのような会社でしようか

当社は、総合建設業として建築のほか、土木工事を手がけております。国・県・市町村などの公共工事が多く、道路の維持や橋梁・護岸の工事、砂防ダム建設のほかにも、冬季は道路除雪も行っています。いわば社会インフラ整備という仕事です。

●最上地域で仕事されてご感想は

父親が当社の創業者で、私は二代目の社長です。東京の大学を卒業後、1977年に10年を越えました。

最上に戻った当時は、技術者としていろいろ勉強しなくてはという考えが強くありましたが、今は、社長として会社全体を見なければいけませんし、利益をきちんと上げて社員に給料を支払わなければなりません。会社を運営するという気持ちと

同時に、仕事を通して地域に貢献していきたいという想いは歳と共に強くなってきています。

●勤めている方も大切ですね

はい。少々大げさな言い方かもしれませんが、勤めてくれている社員に仕事を通してどのように幸せを感じてもらえるかを、より考えるようになりました。

建設業の役割として、社会インフラを作るだけでなく、地域の中でどれだけ貢献できる存在になるかという視点も必要です。

会社として長く存続していくにはそういった公の視点が欠かせない時代だと思います。

また、建設業は自然災害からの復旧復興のお手伝いとして欠かせない存在でもあります。

自然災害は、もちろん無い方が良いのですが、自然豊かな日本では避けられないことでもあります。時に起こる自然災害は、建設業に携わる私たちに、社会の中で自分たちの役割の大切さを、凶らずも思い起こさせてくれますね。

●多数の現場の管理はどのように

工事現場には「現場代理人」として監督者がいます。この代理人には経営者の代わりとなり工事を担当してもらいますので、それぞれの方に責任感を持って仕事に当たってもらっています。

●任せるには怖さもありません

はい。怖さがないと言えば嘘になりますね。しかし、社員を信じて仕事を任せるのが経営者の仕事の一つでもあります。

責任を背負って一つの現場をやりたい時、目に見えるものが出来上がった時、人も成長する。これが建設業の醍醐味だと思いますよ。

また、その過程で地域住民の方との調整や様々な関係者との関わり合いもあります。土や機械に向き合うだけでなく、人や人との関係性にも目を配らなければなりません。

土木技術者というのはある意味でオールマイティな仕事なんです。

●若者にどんな資質を求めますか
第一に「素直さ」です。それさえ

あれば少しわんぱくでも良いのです。むしろその方が良かったりしますから。

やたらと人と違った考えを持つよりも、人の話に耳を傾け、受け止められる資質、それが「素直さ」だと思います。

人と話そうという時には、まず素直に相手の声を聴くことで、うまくコミュニケーションが取れるのだと思います。そういった意味でも素直な気持ちや態度を持つことはとても大切なことですね。

●新しいことが好きだとお聞きしました

はい。私自身、新しいものの好きの性格で様々なことに興味があります。再生可能エネルギーの活用を目指す会社である「もがみ自然エネルギー株式会社」の代表も務めておりますが、それも、そんな私の性格が影響しているのでしょうか(笑)。

最近は人工知能にも大変興味があります。でも、今から学び直すのも大変ですね(笑)。

新しさへの興味や精神の若々しさを保つためには、業種を問わずいろいろな方とお話をするのが一番良いのかもしれない。

若い人たちには、新しいものへの興味をぜひとも持ち続けていただきたいと思えます。